

プロデュース事業

事業 商品企画開発・営業・Harunaブランド・貿易・購買・生産・SCM・物流・情報・研究開発

お客様と共に歩んだ30年

1996年の創業以来、私たちはお客様の声に耳を傾けることから全てをスタートしました。ご要望を形にするOEM生産から、自社の想いを込めたプライベートブランド開発へ。そして現在では、市場のニーズを先読みし、お客様のビジネス全体を成功に導く「プロデュース事業」へと進化を遂げています。この30年の歩みは、ひとえにお客様やお取引先の皆様の温かいご支援の賜物と、心より深く感謝申し上げます。この感謝を未来への力に変え、「潤う幸せを世界に」という原点を胸に、私たちはこれからも皆様の期待を超える価値創造に挑戦し続けてまいります。

挑戦と成長のプロデュース 30年の軌跡

ハルナグループは、創業以来培ってきた飲料製造のノウハウと品質管理体制を基盤に、国内市場にとどまらず、積極的に海外へと事業領域を拡大してまいりました。「潤う幸せを世界に」というビジョンのもと、グローバル市場へ挑戦を続けるその軌跡をご紹介します。

1996年 -
創業当初、大手企業のナショナルブランドのOEMパートナーとして、品質と生産技術の礎を築きました。

多様な販路への展開と圧倒的な商品開発力

グラフは、当社の新規商品(SKU)開発の軌跡を示しています。特に「スーパーマーケット」チャンネルに強みを持ちながら、「コンビニエンスストア」「ホームセンター」といった多様な販路へも商品を展開。時代のニーズやトレンドを的確に捉え、2010年度から16年間で合計1,501もの商品を市場へ送り出してきました。この数字は、当社の企画開発力と生産対応力の証です。



1997年 -
市場の変化を捉えた、自社ブランドへの挑戦

小売市場でプライベートブランドが本格的に広がり始めた黎明期、当社はOEMで培ったノウハウを活用し、自社でのPB商品開発もすすめていきました。品質へのこだわりはそのままに、お客様の声をダイレクトに反映した商品づくりに挑戦。この戦略転換が、当社の新たな成長エンジンとなりました。



SRR2011より

現在
累計6,000アイテムを超える、信頼の軌跡

一つひとつの商品開発を積み重ね、2026年現在、当社が企画した累計SKUは6,000アイテムを突破しました。これは、数多くの小売業の皆様からパートナーとして選ばれ、共に消費者の期待に応え続けてきた信頼の証に他なりません。ロングセラー商品からトレンドを先取りした新商品まで、その一つひとつが私たちの誇りです。

次の10年へ向けて 新たな価値創造への挑戦

創業から30年。私たちは、変化を恐れず挑戦を続けることで成長してきました。これからも市場の半歩先を見据え、消費者に新たな価値を提供できるプライベートブランドの企画開発に邁進してまいります。次の10年も、皆様の暮らしに寄り添うパートナーであり続けることを約束します。



進化するマーケティング戦略

国内飲料事業

お客様一人ひとりの日々に、潤いと彩りを

私たちの国内飲料事業は、お客様の多様なライフスタイルに寄り添い、日々の暮らしの中に潤いと彩りをお届けすることを目指しています。お客様一人ひとりの「欲しい」に応える「One to Oneマーケティング」と、私たちの想いを形にする「Harunaブランド戦略」。この二つを両輪として、私たちは価値創造の歩みを進めています。

お客様の「欲しい」を形に One to Oneマーケティング

多様化するお客様のニーズに的確にお応えするため、私たちは絶えず新しい価値の創造に挑戦しています。今年度は新たに60品目もの新製品を開発し、お客様の選択肢を大きく広げることができました。その結果、私たちが生産する製品の累計アイテム数は過去最高を更新。これは、それだけ多くのお客様の声に耳を傾け、形にしてきた証です。

進化するOne to Oneマーケティング戦略

お客様一人ひとりに寄り添う価値の提供へ

私たちは、お客様一人ひとりの多様なニーズにきめ細やかにお応えするため、「One to Oneマーケティング」を事業戦略の中核に据え、よりパーソナライズされた(お客様個人のための)体験価値の提供を追求してまいります。本年度は特に、以下の取り組みを強化いたします。

最適な商品・サービスのご提案

お客様のこれまでのご利用状況やご関心に基づき、一人ひとりに最もふさわしいと思われる商品やサービスを厳選してご提案します。お客様の毎日がより豊かになるような出会いを創出することを目指します。



お客様の声を価値創造の源泉に

お客様から寄せられる貴重なご意見は、私たちのサービスを磨き上げるための最も重要な指針です。アンケート調査などを通じて積極的にお客様の声に耳を傾け、サービスの継続的な改善と、ご期待を超える新しい価値の創造に活かしてまいります。



パーソナルなコミュニケーションの深化

お客様との対話を何よりも大切に、メール、電話、あるいはチャットサポートといった様々な接点において、一人ひとりに寄り添った丁寧なコミュニケーションを心がけます。お客様のお困りごとやご要望に、迅速かつ的確にお応えできる体制を強化してまいります。



ロイヤルカスタマーの皆様との特別な絆づくり

日頃よりご愛顧いただいている大切なお客様(ロイヤルカスタマー)との絆をさらに深めるため、特別なイベントへのご招待や、新商品をいち早くお試しいただける機会などを企画してまいります。ブランドとお客様との特別な関係性を築いていくことを目指します。



MESSAGE

当社は、これまで多くのパートナー企業様と共に、対話と信頼を重ねながら協創の取り組みを進めてまいりました。一つひとつのプロジェクトに真摯に向き合う中で生まれた成果は、単なる業務の枠を超えた「共に創る価値」であると感じています。今後も、信頼を何よりも大切にしながら、多様な視点を取り入れ

た協創をさらに深化・拡大させ、社会に貢献できる新たな価値を生み出していきたいと考えています。

ハルナグループCMO
ハルナプロデュース株式会社 専務取締役 **山崎 敦也**



2025年TOPICS商品 暮らしに寄り添う、新たな選択肢

Le'café(ルカフェ)ティー
スパークリング

お茶の新たな楽しみ方を提案する「ルカフェ」ブランドから、緑茶や紅茶の華やかな香りが楽しめる、ノンアルコールのスパークリングドリンクが誕生しました(2026年2月発売)。特別な日の食卓や、リフレッシュしたいひとときに、心華やぐ選択肢をお届けします。



緑茶スパークリング200ml GREEN TEA sparkling
紅茶スパークリング200ml BLACK TEA sparkling

持ち運びに便利な「天然水 1L」

「重いのは大変だけど、500mlでは足りない…」そんな声にお応えし、日常使いからアウトドアまで、様々なシーンで活躍する1Lサイズの天然水が登場。「by amazon」や「From AQUA」ブランドとして、より手軽に、より便利になりました。



私たちの想いを届ける
Harunaブランド戦略



私たちの名を冠した「Haruna」ブランドは、皆様の温かいご支持のもと、販売数量が前年比で184万ケース増と大きく成長しました。特に、主力の「安曇野の自然が育んだ天然水」は、カインズ様やベイシア様といった日々の暮らしを支えるパートナー企業様を通じて、多くのお客様の食卓に届けられています。また、来客時のおもてなしやオフィスでのひとときに最適な「オモテナシ」シリーズも、人と人との繋がりの中に潤いの時間を提供しています。

ハルナブランド
谷川岳の自然が育んだ天然水 1L

雄大な谷川岳の自然に育まれた、清冽で柔らかな味わいの天然水を、日常で使いやすい1Lサイズでお届けします(2025年11月発売)。毎日の水分補給が、少し特別な瞬間に変わります。



Chabaa(チャバ) フルーツ炭酸飲料

果汁100%の贅沢な味わいを、シュワっと弾ける炭酸で楽しめるフルーツドリンクがヤオコー様限定で登場(2025年10月発売)。パッションフルーツやブラッドオレンジなど、果実そのものの濃厚な甘みと爽快感をお楽しみいただけます。



Thai Festival Tokyo 2026

5月9日・10日に代々木公園で開催された「タイフェスティバル TOKYO2026」に、Chabaaとして出店いたしました。2026年夏にデザインリニューアルを予定しているChabaa商品を中心に、フロアドリンクや限定グッズを展開し、多くのお客様にお楽しみいただきました。

また、Chabaaで1番人気の「スイカ」をモチーフにしたオリジナルうちわを配布したことで、多くの方々にブースへお越しいただくきっかけとなりました。今回の出店を通じて、Chabaaブランドをより多くの方に知っていただける非常に良い機会となりました。今後も、Chabaaブランドをさらに盛り上げてまいります。



私たちはこれからも、お客様一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、皆様の暮らしがより豊かになるような製品とサービスをお届けしてまいります。

MESSAGE

「お客様一人ひとりの気持ちを形に」という私たちの想いは、今年度90品もの新商品開発となって結実しました。One to Oneマーケティングによる多岐にわたる挑戦と、皆様に支えられ成長した「Harunaブランド」。この両輪を回し、お客様の暮らしに寄り添う価値を創造できたことは大きな誇りです。これか

らも市場の声に真摯に耳を傾け、お客様の日常に潤いと彩りを届ける挑戦を続けていきます。

ハルナプロデュース株式会社 常務執行役員 株式会社ハルナウォーター 常務執行役員 **松田 貴之**



商品開発事業

私たちの30年の歴史は、まさに「開発」と「創造」の歴史そのものです。お客様のニーズに応え、市場の未来を創造してきた開発部門の歩みは、ハルナグループの成長の原動力であり、私たちの誇りです。

1996年 - 2000年代 / 礎を築く

1996年の創業当初、私たちの開発は、お客様のご要望を忠実に形にする「OEM生産」の中にありました。しかし、単なる製造に留まらず、私たちのDNAには「品質」と「信頼性」を基盤とする開発思想が根付いていました。

1997年の「商品開発ビジネスの開始」は、最初の転換点となります。受託製造で培った知見を活かし、私たちは自ら市場に新たな価値を問い始めました。「研究所」を設立したことは、私たちの決意の象徴です。これにより、開発は単なる「業務」から、企業の未来を創造する「機能」へと進化を遂げたのです。



2010年代 - / 進化と拡大

2010年代に入ると、開発部門の役割はさらに拡大します。お客様のブランド価値創造を担う「プロデューサー」として、開発部門は、その中核を担うエンジンとして位置づけられます。この時期、ハルナプロデュースは国内外での事業拡大を通じて、さらなる成長を加速させます(2014年HARUNA Asia (Thailand) Co.,Ltd. 設立など)。これにより、開発部門が手掛ける製品の力カテゴリーや市場は大きく広がり、より複雑で高度な開発案件に対応できる体制が整っていきました。



2011年SRRより

現在、そして未来へ / 革新と共創

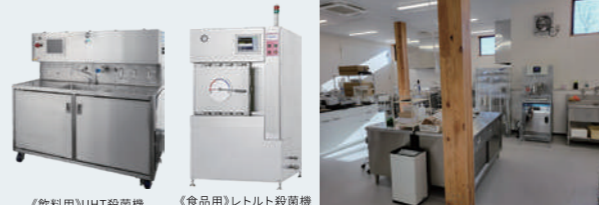
そして今、私たちの開発は新たなステージを迎えています。2024年に設立した「ハルナイノベーションセンター」は、その象徴です。またイノベーション事業の「Haruna Co-Create」は、お客様、パートナー企業様、時には異業種の知見をも取り込み、共に新しい価値を「共創」する。それが、現代の開発部門の使命です。

企画から研究開発、製造、販売戦略に至るまで、あらゆるプロセスに開発部門のDNAは息づいています。



ハルナイノベーションセンターでは、新たな設備(殺菌機)の導入により実製造ラインと同等の開発レベルの実現が可能となります。また、お客様に新商品の試飲・ラベルサンプル等をその場でご確認いただき、味の改良依頼があれば即座に改良品を作ることが可能となります。また、実店舗でどのように見えるかなどの確認もギャラリー「手にとる」部分にて商品陳列イメージについても確認し、ラベルの改良依頼があればラベル印刷機で即座に改良品をご提示可能です。

新製品の研究・開発に欠かせない
ラボ用殺菌装置



新たな取り組み
新設備の導入による拡大領域

新たな設備導入により自社プラントで製造できない容器形態や、飲料だけでなく中性食品カテゴリーの開発が可能になります。飲料はもちろんレトルト容器や缶、カップ容器での商品開発・試作検証が可能になります。また今まで開発が困難であった中性ミルク飲料やスープ・出汁、スイーツ、完全栄養ドリンクなどの開発/検証も可能となります。

例:レトルト容器や缶、カップ容器での試作検証が可能に



レトルト食品 カレー、惣菜、肉/魚料理など
缶飲料・食品 ミルクたっぷりコーヒー、スープ、液体ミルク・非常食など
カップ食品 プリン、ゼリー、スープ、など

MESSAGE

「開発」と「創造」を原動力としてきたハルナグループの30年の歴史。お客様のニーズに応える気持ちから始まり、自ら市場を創る機能へと進化を遂げてきました。ハルナイノベーションセンターを核に、これからも新たな価値を「共創」します。未来の食シーンを創造する私たちの挑戦にご期待いただければ幸いです。

ハルナプロデュース株式会社 マーケティング本部 営業開発Unit
プリンシパルオフィサー **小荷田 努**



生産・品質事業

1996年 - 2006年 / 礎を築く 品質管理と生産基盤の確立

この時期は、製造業としての根幹を築く重要な10年でした。創立2年目の1997年第2工場稼働、またハルナバレッジ研究所を設立し、科学的アプローチを開始。2000年には第3工場稼働、翌年第2工場でJAS工場認定、2006年には当時の全工場にてHACCPの認証を取得し、安全で高品質な製品を製造するための体制が着実に整備されました



2016年 グループの競争力を飛躍させた転換点

商品企画から研究開発、生産、物流までの全機能を「ハルナプロデュース」に集約し、製販一体の迅速なバリューチェーンを構築。同時に、国際的な食品安全規格FSSC22000の取得を推進し、世界基準の品質保証体制を確立。国内外での信頼を得る経営基盤を固めました。



この30年間は、品質第一の姿勢を貫きながら生産規模を拡大し、そして地球環境と共生するサステナブルな製造体制へと進化を遂げた、挑戦と革新の歴史でした。

MESSAGE

30数年前、青木清志創業者と初めてお会いしました。とてもパワーがあり若者を上回る熱意に驚いたことを昨日のこのように思い出します。ハルナグループは「人」、人財を愛し育てることでハルナグループは成長してきたと思います。また、様々なチャレンジを行い絶対にあきらめない！顧客のために最高のモノづくりを目指し続けた30年だと感じています。その間に、生産基盤を強化し品質力を上げ、拠点として、高崎、みなかみ、和歌山、安曇野、松川

2007年 - 2015年 / 飛躍と拡大 生産能力の増強と多角化

生産体制を本格的に拡大させる時期です。2007年6月オーパイクがグループ参画、タニガワプラント始動。生産能力をさらに増強した。2011年東日本大震災後、直ぐにプラントシステムインベション「見える化」にてコントロール室を完成。2013年4月にはジョイバック社の参画で和歌山にもプラントを設立するなど、新工場の稼働が相次ぎ、多様化する市場の需要に応える体制を構築しました。



タニガワプラント

和歌山プラント

2016年 - 2025年 / 進化と持続可能性 サステナビリティと未来への投資

進化と持続可能性(2016年~2025年)- サステナビリティと未来への投資。

この時期は、単なる製造に留まらず、持続可能性(サステナビリティ)を強く意識した取り組みが際立ちます。太陽光発電設備の導入を開始し、再生可能エネルギーへの転換を加速させています。また、2019年以降はSDGsへの貢献を明確に掲げ、ウクライナへの支援や地域貢献活動も活発化。未来を見据えた製造のあり方を追求しています。



MESSAGE

と仲間を増やし大きな飛躍を遂げて参りました。現在は各拠点が成長し進化し未来へと各地の仲間達が羽ばたいています。まだまだ挑戦！現場を改革、革新しながら熱意をもって皆様の声に応えて参ります。今後ともよろしく願いいたします。

ハルナプロデュース株式会社 取締役
株式会社ハルナウォーター 取締役(非常勤)(経営指導担当)
中澤 幹彦



ハルナグループを支える礎「生産・品質部門」

当社が展開する全国5か所の
自社の飲料生産拠点についてご紹介いたします

ハルナグループは飲料事業を始めるにあたり、最も重視したのは水でした。「誇るべき日本の水」を国内はもとより海外へも展開することをビジョンに掲げ、まずはおいしい水をベースに茶系飲料の受託生産からスタートしました。ハルナグループは自然の恵みを大切に、5つある自社の生産拠点及びパートナープラントのご協力のもと飲料をお届けしています。

お客様に、企画・マーケティングから、商品開発、生産、物流までのサプライチェーン全体に対応し飲料をプロデュースし独自のビジネスモデルを展開しています。食品や飲料などを安全に製造することを目的とした、世界的なマネジメントシステムであるFSSC22000マネジメントシステムの認証を自社の5つの生産拠点で取得しています。

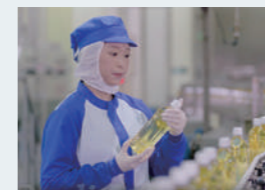


生産プラントの品質強化対策

私たちはお客様の信頼に応えるため、「品質向上」と「生産性向上」を両輪とした品質強化対策を実行しています。対策は、大きく分けて「人」と「設備」の二つの側面から成り立っています。

「人」：教育と文化の醸成

定期的な品質教育や改善提案制度の活性化を通じて、従業員一人ひとりの意識とスキルを高め、全員で品質向上に取り組む文化を育みます。



<最高品質責任者(CQO)の選出と生産・品質の責任範囲を明確にした組織変更の実施>
<生産・品質の幹部を集めた意見交換会の開催や品質向上および人・組織をテーマとした社内研修の開催>

「設備」：生産性と品質の安定化

生産ラインの自動化やAI画像検査といった最新技術を導入し、生産性を向上させます。同時に、高性能な検査機器への投資や設備の計画的な更新を行い、安定した高品質なものづくりを実現します。



<金属探知機の導入：タニガワプラントを皮切りに各拠点に金属探知機を設置>
<FDカメラの導入：これまでは製造工程を遠隔から見るためのカメラ設置を主体としてきたが、フードディフェンスの観点を取り入れたカメラを各拠点の各工程毎に増設>

従業員の成長を促し、最新の技術を駆使することで、生産プロセス全体のレベルを底上げし、お客様の信頼に応え続ける品質の向上をこれからも追求してまいります。

MESSAGE

私たち品質保証部門は、お客様に確かな安全と安心を提供し、信頼に応えることを使命としています。その実現に向け、教育による人財育成と現場発の改善活動を基盤に、食品安全文化の醸成を推進するとともに、AIなどの先進技術を活用した設備の高度化に取り組んでいます。人と設備の両面から品質保証体制を進化させ、品質と安全性の維持・向上に努めてまいります。

ハルナグループCQO / ハルナプロデュース株式会社 常務執行役員 横澤 光洋



飲料生産拠点の生産力

ハルナプラント

所在地:群馬県高崎市足門町39-1

☆ FSSC22000全工場認証 ☆ 有機JAS認定工場(第1~第3プラント)

工場名	容器形態(ml)	飲料カテゴリ
第1プラント 能力:100BPM	2,000ml角(1c/s=6本)	茶系飲料 (緑茶、烏龍茶、麦茶、混合茶)
第2プラント 能力:400BPM	280ml多面 500ml角・多面 350ml多面 525ml多面 ※1c/s=24本	茶系飲料 (緑茶、烏龍茶、紅茶、麦茶、混合茶)
第3プラント 能力:500BPM	280ml角・多面 525ml多面 350ml多面 600ml多面 500ml角・多面 ※1c/s=24本	茶系飲料、果汁飲料、 スポーツドリンク、その他

※ BPM ... 1分間あたりの製造本数



タニガワプラント

所在地:群馬県利根郡みなかみ町政所1011

☆ FSSC22000認証工場

工場名	容器形態(ml)	飲料カテゴリ
第4プラント 能力:150~350BPM	2,000角(1c/s=6本) 900角(1c/s=12本) 1,500角・丸(1c/s=8本) 500角・多面(1c/s=24本) 1,000角(1c/s=12本) 280多面(1c/s=24本)	ミネラルウォーター(受入水、純水可) 緑茶、烏龍茶
第5プラント 能力:150~350BPM	2,000角(1c/s=6本) 500角・多面(1c/s=24本) 1,500角(1c/s=8本) 350角(1c/s=24本) 1,000角・長角(1c/s=12本) 350スリム角・多面(1c/s=24本) 900角(1c/s=12本) 280角・多面(1c/s=24本)	100%果汁飲料、スポーツドリンク、 乳性飲料、ニアウォーター、 機能性飲料(プロテイン可)、 ウーロン茶飲料

※ BPM ... 1分間あたりの製造本数



和歌山プラント

所在地:和歌山県海南市七山711-1

☆ FSSC22000認証工場 ☆ 有機JAS認定工場

工場名	容器形態(ml)	飲料カテゴリ
第6プラント 能力:220~400BPM	2,000角(1c/s=6本) 1,500角・丸(1c/s=8本) 1,000正・長角(1c/s=12本) 900角(1c/s=12本) 525角・多面(1c/s=24本) 500角・多面(1c/s=24本)	茶系飲料(緑茶※抹茶入り可、 紅茶、烏龍茶、ジャスミン茶、混合茶) 果汁飲料、スポーツドリンク

※ BPM ... 1分間あたりの製造本数



安曇野プラント

所在地:長野県安曇野市穂高有明7378-6

☆ FSSC22000認証工場 ※ ペットボトル容器成型

工場名	容器形態(ml)	飲料カテゴリ
安曇野プラント 能力:120~140BPM	2,000ml 長角(1c/s=6本) 550ml 丸(1c/s=24本) 1,000ml角(1c/s=12本)	ミネラルウォーター

※ BPM ... 1分間あたりの製造本数



松川プラント

所在地:長野県北安曇郡松川村7064-200

☆ FSSC22000認証工場 ※ ペットボトル容器成型

工場名	容器形態(ml)	飲料カテゴリ
松川プラント 能力:120~140BPM	2,000ml 長角(1c/s=6本) 550ml 丸(1c/s=24本)	ミネラルウォーター

※ BPM ... 1分間あたりの製造本数



未来を拓く事業領域

ミネラルウォーター事業

ミネラルウォーター事業の軌跡

1996年 創業と事業の基盤

創業者青木清志は「誇るべき日本の水」を世界に発信するとのビジョンを掲げ、ハルナビバレッジ株式会社を設立しました。
事業の根幹に「水」を据え、まずは良質な水をベースにした茶系飲料の受託生産からスタート。品質を重視したもので、事業の基盤を固めていきました。



2007年 ミネラルウォーター事業への本格参入 みなかみ

事業の成長に伴い2007年、群馬県みなかみ町にタニガワプラントが稼働。三国山脈の良質な水資源を活かし、ミネラルウォーターの本格製造を開始。多様なニーズに応える体制を構築しました。



2023年7月 株式会社ハルナウォーターが始動

この清冽な水を用いた非加熱製法の「ミネラルウォーター」は、私たちの品質へのこだわりの象徴となりました。日本のミネラルウォーターの新たな価値創造によって、暮らしに小さな幸せを広げ、世界をもっと美しく、もっと幸福にする「潤う幸せ」を発信し続けます。



モンドセレクション金賞受賞
安曇野の自然が育んだ天然水
550ml



その後も理想の水質を求め、長野県安曇野地区の水源地に着目。北アルプスの麓で採水される高品質なナチュラルミネラルウォーターとして「水の故郷 安曇野」ブランドが誕生しました。

株式会社ハルナウォーター

日本の原風景が広がる、長野県・安曇野市と松川村

その豊かさの源は、北アルプスの山々から注がれる清らかな雪どけ水です。この水は美しい扇状地を形成し、一日約70万トンもの良質な天然水となって、この地の暮らしと産業を潤してきました。



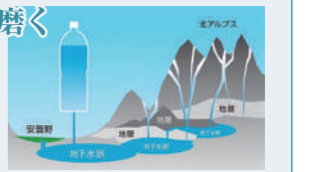
名水百選に選ばれた、恵みの水

古くからわさび栽培や養殖を支え、人々の営みと共にあった安曇野の水。その清らかさは「名水百選」にも選ばれ、日本を代表する名水の地として知られます。



北アルプスの地層が、水を磨く

北アルプスの花崗岩が水を磨き、クリアな軟水に。安曇野の森が育んだ自然のミネラルが溶け込み、絶妙なバランスの美味しさが生まれます。



ハルナウォーターは超軟水

日本で一般的に軟水と言われる水の硬度は100mg/L以下とされています。ハルナウォーターの硬度14mg/Lの超軟水は、飲用はもちろん、料理やお茶の味をぐっと引き立てます。赤ちゃんのミルク作りにも安心してお使いいただける、体に優しいお水です。



自然そのまま 非加熱製法

自然の恵みをそのまま届けるため、非加熱でろ過し無菌充填。天然のミネラルバランスを保ったまま異物や微生物だけを除去し、安心して美味しい水をお届けします。



MESSAGE

日本にはミネラルウォーターの工場は数多くありますが、効率を最優先とした製造方式によるラインがほとんどです。それは安定供給を継続する以上は必須であり我々も同様に追い求めておりますが、「非加熱充填」を代表とする、自然そのままの天然水を安全にお客様にお届けするスタンスだけは崩さずに、生産を行っております。

安曇野の天然水を心待ちにしている皆様のためにも、素晴らしい環境の維持と工場稼働の両立をメンバー全員で取り組んでまいります。

株式会社ハルナウォーター 常務取締役 土屋 勝



プラントが連携し、グループは次のステージへ

2025年～2026年 TOPICS

社内情報共有ツール「HaruNavi」 ～デジタルマップで繋ぐ現場の輪～

2026年5月、HdXプロジェクトの一環として、オリジナルのデジタルマップ「HaruNavi」をリリースしました。モニターやタブレット、パソコンやスマホから、各現場での改善事例やノウハウ、トラブル対応履歴などを地図上のピンで可視化。

拠点や部署の壁を越えて「気づき」をリアルタイムに共有し、グループ全体の力に変えていきます。今後は双方向のコミュニケーションツールへと進化させ、さらなる連携強化を目指します。



タニガワプラント優良施設賞受賞

タニガワプラントは利根沼田食品衛生協会より「優良施設賞」を受賞しました。この賞は、渋川保健福祉事務所のご推薦のもと、当プラントの日頃の食品衛生管理への取り組みが高く評価されたものです。今回の受賞を励みに、全社を挙げて食品の安全・安心への意識をさらに高め、お客様に信頼いただける製品づくりに一層邁進してまいります。



営業サポート業務の連携と効率化

拠点間の営業サポートが連携し、互いの長所を取り入れ業務を標準化。グループ全体で業務効率と顧客対応速度を向上させました。

お客様対応力の連携強化

お客様対応マニュアルを共有し、講習会を開催。グループ全体の顧客対応力を標準化し、顧客満足度向上に努めています。



社員の愛するキャラクターが、 ブランドをひとつに

安曇野とタニガワの「自然が育んだ天然水シリーズ」のカーatoonに「ブルーベリィ」キャラクターで連携。グループのブランド力を高め、お客様への訴求力向上を図ります。



MESSAGE

ハルナプラントは、古くから自然が息づく群馬県榛名山のふもとの地下水を使用して飲料を生産しています。品質基準(製品・工場・人)の更なる強化をし、安全・安心でお客様にご満足いただける製品を、安定的にお届けし続けるよう取り組んでまいります。

ハルナプロデュース株式会社 執行役員
ハルナプラント製造統括 小倉 秀一



タニガワプラントは、様々な液種及び容器サイズでの製造を可能とするスーパーマルチプラントです。私たちは、全ての製品一本一本に気持ちを込め品質力を磨き、お客様に信頼されるプラントを目指し日々活動してまいります。

ハルナプロデュース株式会社 執行役員
タニガワプラント製造統括 松尾 正人



和歌山プラントは、グループプラントの中で一番高い能力を備えております。「品質最優先」の意識を一人一人が自覚し向上していくと共に、「止まらない工場」で「生産性を高める工場」づくりを進めています。今後もお客様の期待に応えるべく安心安全な製品を提供し続けていきます。

ハルナプロデュース株式会社 執行役員
和歌山プラント製造統括 青木 弘一



安曇野の豊かな自然が育んだ清らかな水を、最高の品質と安全性を守り抜いてお届けしています。私たちは環境負荷の低減と徹底した品質管理を両立し、お客様に寄り添った安全・安心な製造のあり方を追求し続けます。

株式会社ハルナウォーター 常務執行役員
製造統括 中山 広樹



物流事業・サプライチェーンの構築

ハルナグループの事業基盤を支える「物流事業の軌跡」

2004年3年

SCM(サプライチェーン・マネジメント) 概念の導入

ハルナロジスティクス株式会社(現:ハルナプロデュース株式会社)を設立。SCM、物流、情報システムを統合管理する体制を構築し、効率的なサプライチェーンの基盤を築きました。



2016年

グループシナジーの追求

飲料の企画・開発から製造、物流までを一貫して手掛ける総合飲料プロデューサー企業としてハルナプロデュース株式会社設立。物流機能はグループ全体の価値を支える重要なインフラとして、現在も進化を続けています。



2025年度実績

物流サービス向上と合わせた効率的な配送・保管対策を図りました。

お客様への提供価値の向上

物流サービス向上を図ることで、お客様にご負担いただける物流費の配送単価の見直しを実施

サプライチェーン全体の最適化

各拠点(群馬/長野/和歌山)および全国パートナープラントも含めた配送・倉庫保管の最適化を行い拠点倉庫間の配送回数を抑え配送費用の抑制

パートナーシップの 深化と運用の革新

既存の外部倉庫運用の見直しを実施し、最適な外部倉庫への集約化・新規外部倉庫開拓、2つの倉庫での2箇所積み削減等の取り組みによる外部倉庫費用・配送費用の削減

ハルナグループは、創業以来、製造から販売まで一貫したバリューチェーンの構築を目指し、その中核を担う物流機能の強化・拡充に努めてまいりました。

2011年

物流機能の専門化と拠点拡充

物流機能の専門性を高め、より高度なサービス提供を目指す体制へと移行し、ワイエスロジスティクスの株式を100%取得し、完全子会社化。これにより、物流ネットワークとノウハウをさらに強化しました。



2019年

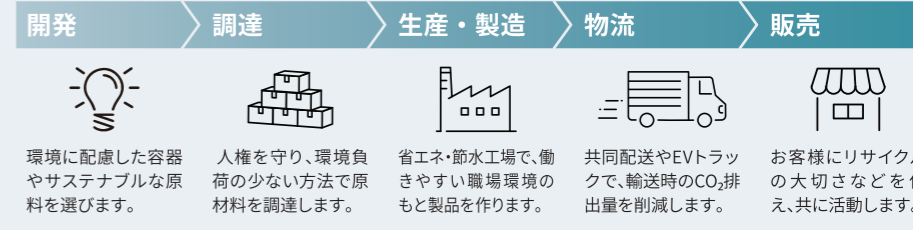
ディストリビューション センター完成

設備と効率的なオペレーションシステムを導入したセンターは、多様化するお客様のニーズに迅速かつ柔軟に対応する、当社のサプライチェーン戦略の要となりました。これにより、保管能力と出荷能力が飛躍的に向上し、より広範なエリアへの安定的な製品供給が可能となりました。

ハルナグループの物流事業は、これからもグループ全体の成長とお客様からの信頼を支える事業基盤として、安定供給という使命を果たし、さらなる品質向上と効率化への挑戦を続けてまいります。

持続可能なサプライチェーンの構築

バリューチェーンの各段階において社会・環境課題を特定し、その解決に取り組んでいます。責任ある原材料の「調達」、環境負荷を抑えた「製造」、効率的で低炭素な「物流」。すべての工程において、透明性の高い事業活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。



MESSAGE

ハルナグループ プラントの連携が拓く、私たちの未来

各プラントが未来を思い描きながら、日々積み重ねる努力と改善、前向きで他の人を思いやる心が、ハルナグループ連携の原動力であると考えています。それぞれの現場が持つ知恵や経験を展開・共有し向上させることで、個々の力を足し算ではなく掛け算としグループ全体の大きな力・強みへ繋げていきます。これからも現場の声を尊重し、共に未来のモノづくりを創り上げていきたいと考えております。

ハルナグループCPO / ハルナプロデュース株式会社 常務取締役 古市 直也



5 パートナープラント

成長を加速するパートナーシップ

お客様の多様なニーズにお応えするため、私たちは全国の優れた技術を持つプラントの門を叩くことからスタートしました。

はじめは手探りの連携でした。しかし、私たちの品質へのこだわりと、それに応えてくださるパートナープラント様の熱意が重なり合う中で、少しずつ信頼の絆は強固なものとなっていきました。私たちは定期的に全国各地へ足を運び、時には生産ラインの隣で、時には会議室で、膝を突き合わせて語り合いました。成功事例だけでなく、失敗から得た教訓も包み隠さず共有し、互いの技術や知見を吸収し合うことで、共に成長する道を歩んできたのです。

一本一本の商品に込められた品質は、こうした地道な交流の積み重ねの結晶です。それぞれのプラントが持つ独自の強みと、ハルナグループが長年培ってきた品質管理の哲学が融合することで、私たちの製品はより高いレベルへと進化を続けてきました。

この軌跡は、決して平坦なものではありませんでした。しかし、どんな時も変わらなかったのは、「お客様に最高の商品を届けたい」という共通の想いです。これからも私たちは、全国のパートナープラント様というかけがえのない仲間と共に、新たな品質の地平を切り

拓くための歩みを止めることはありません。

地道な取り組みを通じて、すべての生産拠点においてハルナグループが定める高い品質基準を維持し、お客様にいつでも安心して手に取っていただける製品をお届けすることをお約束いたします。

これからも「お客様に良いものを届けたい」という同じ想いを持つ仲間と共に、品質向上に努めてまいります。

2025年度は、既存のパートナープラント約30社との更なる連携強化を行ったことで供給量拡大。また、自社では製造できない「缶容器」「炭酸飲料」等の新規開発商品も積極的に立ち上げた結果、付加価値の高い商品の販売比率も増加し営業利益の増加に繋がりました。



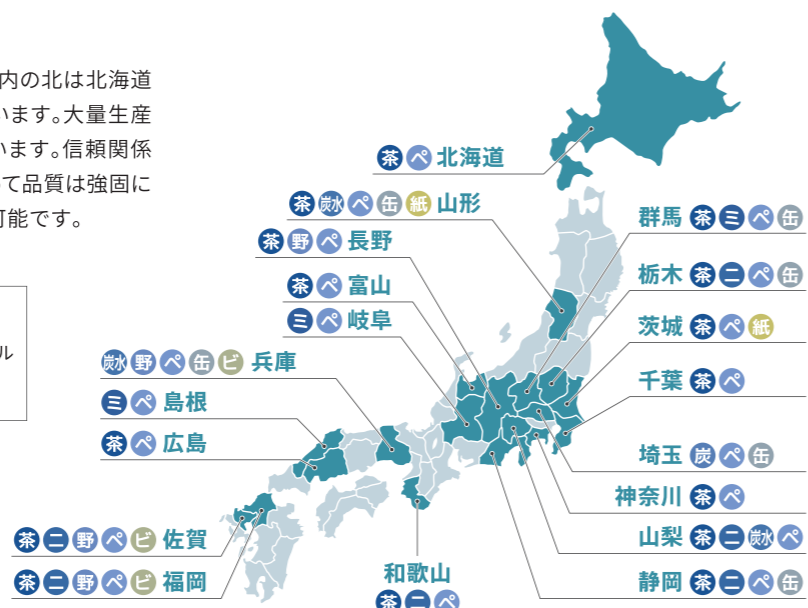
パートナー協力工場製品マトリクス

製品・容器の種類	北海道	山形	栃木	茨城	群馬	埼玉	千葉	神奈川	富山	長野	山梨	静岡	岐阜	和歌山	兵庫	鳥根	広島	福岡	佐賀
茶系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ミネラルウォーター					●											●			
二アウォーター			●								●	●		●				●	●
炭酸水		●									●				●				
炭酸飲料						●													
野菜・果汁										●					●			●	●
ペットボトル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
缶		●	●		●	●						●			●				
ビン															●			●	●
紙		●	●																

全国のパートナー協力工場

ハルナグループは、品質と生産能力を担保するために、国内の北は北海道から南は九州まで協力工場とパートナーシップを結んでいます。大量生産に対応可能な生産能力の向上と品質の安定化を図っています。信頼関係が結ばれた協力工場の方々とのコミュニケーションによって品質は強固に担保され、難易度の高い要望にも柔軟に対応することが可能です。

- 茶 … 茶系
- 水 … ミネラルウォーター
- 二 … 二アウォーター
- 炭 … 炭酸水
- 炭 … 炭酸飲料
- 野 … 野菜・果汁
- ペ … ペットボトル
- 缶 … 缶
- ビ … ビン
- 紙 … 紙



成長を加速するパートナーシップ

協創事業

当社の協創事業は、主要企業様との連携深化により、力強い成長を遂げております。事業拡大の基盤となる人財面では、採用活動を強化し、人員の増強を図りました。また生産体制においては、継続的な協議を通じて契約条件の見直しを進めた結果、収益性を向上させることができました。これにより得られた収益は、従業員のエンゲージメント向上を目的としたベースアップや賞与支給といった人財投資へ積極的に配分しつつ、事業全体の増益を達成しております。今後も、強固なパートナーシップを基盤に、事業の継続的な成長を目指してまいります。

マルサンアイ社様とのソイミルク事業

豆乳市場は、昨今の健康志向の高まりを背景に拡大を続けております。主力製品である豆乳飲料が堅調に推移したことに加え、無調整豆乳や機能性を訴求した製品の需要も増加しました。このような市場環境の中、当社はマルサンアイ株式会社様とのパートナーシップ強化に努めてまいりました。そして昨年度も売上高の増加を実現しました。今後も植物性食品への関心の広がりに応え、安定した製造体制の構築を通じて、さらなる成長を目指します。



JR東日本クロスステーション社様とのミネラルウォーター事業

協創をさらに拡大するため、JR東日本クロスステーション様のご協力のもと新たな増産体制を構築し、2025年4月より生産時間を2時間延長することで、1日あたりの製造可能数量を増加させました。加えて、当社の自社製品（ハルナプロデュース製品）およびプライベートブランド製品の一部を同社へ製造委託するなど、相互の生産能力を活かした協力体制を深化させております。これらの取り組みにより、双方の事業拡大に貢献し、売上増を達成いたしました。



協創企業様との信頼関係の構築

株式会社JR東日本クロスステーション様より、JRプラントにおける多大な貢献を評価され、今年も年度末の表彰をいただきました。この度の表彰は、主に以下の2点における当社の取り組みを高く評価いただいたものです。

- ◎食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」認証取得への貢献
- ◎品質課題発生時における真摯な原因究明と解決への尽力

国際規格である「FSSC22000」の認証取得は、全社的な取り組みが不可欠な高難度のプロジェクトです。この達成は、株式会社JR東日本クロスステーション様との強固な信頼関係なくしては成し得ませんでした。特に、JR東日本クロスステーション様の常務取締役 竹内カンパニー長、菊地工場長、鈴

木様、大塚様をはじめとする関係各位からの温かいご指導とご支援に対し、この場を借りて深く感謝の意を表します。

当社は、この栄誉を大きな誇りと励みとし、今後もすべてのパートナー企業様との協創を深化させながら、社会の信頼に応えるべく、より一層の品質向上と安全管理に全社一丸となって邁進してまいります。



JR東日本クロスステーション様より栄えある表彰を賜りました千田さんです。またプロジェクトを推進した矢島さん、そして社員全員の努力をご評価いただいたものと、深く感謝しております。

MESSAGE

私たちの事業の根幹には、全国のパートナープラント様、そして新しい価値を共に創り出す協創事業の皆様との、深く、強い信頼関係があります。製品がお客様のお手元に届くまでには、数多くのパートナーの皆様のお力添えがあることを、この場をお借りして心からの感謝を申し上げます。商品には、製造に携わる全ての皆様の技術と情熱が込められています。この「信頼の輪」をサプライチェーン全体で維持し、発展させていくことが、私たちの最も重要な社会的責務であると考えております。

マルサンアイ様やJR東日本クロスステーション様との協創事業のように、弊社だけでは成し得ない、パートナーシップによる新たな価値創造にも挑戦しております。私たちはこれからも、ステークホルダーの皆様への感謝と尊敬の念を忘れることなく、誠実な対話を重ねてまいります。そして、お客様に喜ばれる製品をお届けし、持続可能な社会の実現に貢献していく所存です。

ハルナプロデュース株式会社
専務執行役員 松井 健一

